

周南市(中国ブロック)

【計画期間 25年4月～30年3月】

・戦後～：旧海軍施設跡地の利用により、石油コンビナートを中心に産業基盤整備が進み、JR徳山駅周辺を中心市街地も発展。近年は、事業所の撤退や百貨店の閉店により、中心商店街等の空洞化が進む。

【中心市街地を巡る状況】

- 市近隣地域への大型商業施設の進出により、H11～13年の間に「徳山サティ」「徳山駅ビル」「トポス」、H25年2月には「近鉄松下百貨店」などエリア内商業施設の撤退が相次ぐ。
- 中心市街地を取り囲む形で中規模スーパーマーケットが立地し、食料品を中心とした最寄品需要も中心商店街から離れたため、小売を中心とした中心市街地の商業機能の空洞化が進む。

○歩行者通行量推移

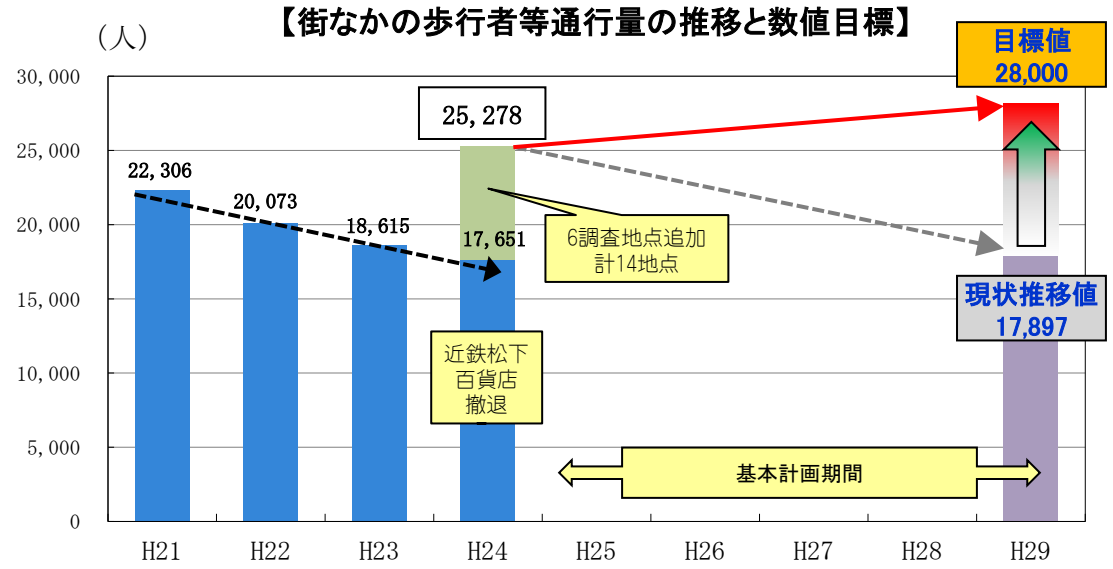
H21:22,306人/日 ⇒ H24:17,651人/日 (20.9%減)

〔※8調査地点(平・休日平均、百貨店撤退影響度を反映)〕

【目指す中心市街地像】

- まちのストックを活かした、豊かな心を育む
公園都市(パークタウン)周南。

目標	指標	現況値	目標値
みんなが行きたくなる、魅力あるモノやサービスが溢れるまち	中心商店街等の新規出店数	100店舗 (H20～24累計)	149店舗 (H25～29累計)
みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち	街なかの歩行者等通行量	25,278人/日 (H24)	28,000人/日 (H29)



- 「みんなが行きたくなる、魅力あるモノやサービスが溢れるまち」
⇒ ①PH+minna整備事業、②徳山シティビルリニューアル事業、③テナントミックス推進事業 など
- 「みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち」
⇒ ④賑わい交流施設整備事業、⑤南北自由通路等整備事業、⑥ポケットパーク整備事業 など

周南市中心市街地活性化基本計画の事業概要

みんなが行きたくなる、魅力あるモノやサービスが溢れるまち
～“新陳代謝”と“楽しさ”のあるまちづくり～

みんなが快適に過ごせる、歩きたくなるまち
～“ゆとり”と“交流”のあるまちづくり～

OPH+minna整備事業(①)

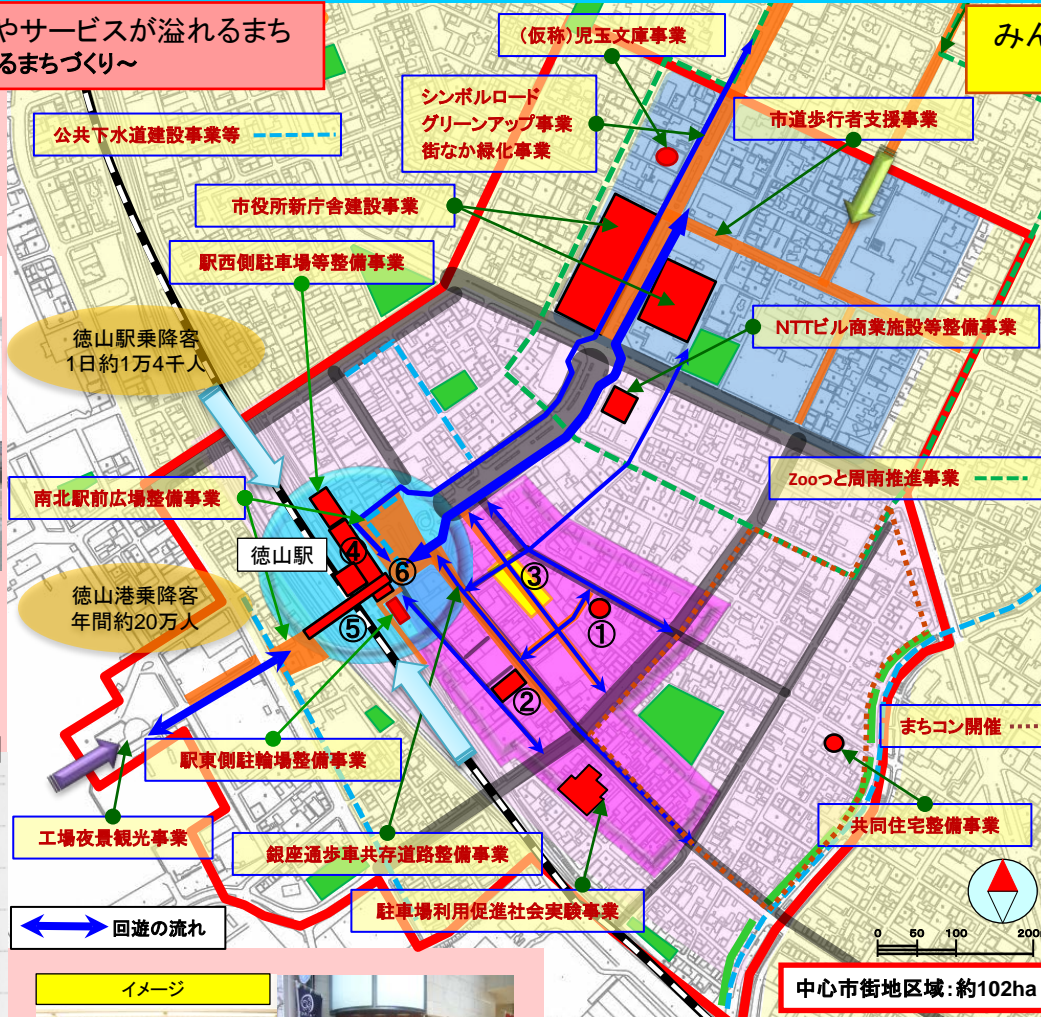
フラワーショップ、セレクトショップ、親子ブックカフェなどの複合商業施設を整備し、賑わいを創出。



○徳山シティビルリニューアル事業(②)

医療・健康福祉などの機能を持つ複合施設を整備し、新たな都市機能を誘致。

6F	居住
5F	居住
4F	居住
3F	居住、食堂、事務室
2F	飲食、店舗、サービス
1F	医療、薬局、店舗



○賑わい交流施設整備事業(④)

(新・徳山駅ビル建設)
現・徳山駅ビル跡地に、多目的広場、情報メディアゾーン、商業施設などを備えた複合施設を整備し、賑わいと交流を創出。



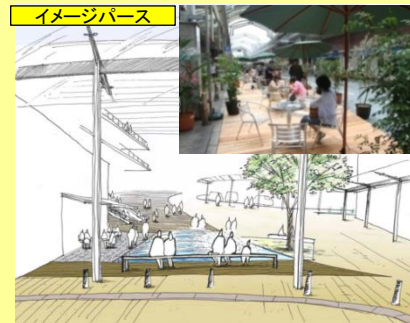
○南北自由通路等整備事業(⑤)

徳山駅の南北をつなぐ、安全で快適な歩行者空間として自由通路と橋上駅舎を整備し、回遊性の向上を促進。



○ポケットパーク整備事業(⑥)

来街者や駅利用者向けのくつろぎある空間としてポケットパークを整備し、滞留利用拠点を創出。



新たな商業空間の創出

回遊の流れ

中心市街地: 約102ha